

## 競技注意事項

### 1. 競技規則について

本大会は2018年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

### 2. 参加校受付について

- (1) 参加校受付は、インフォメーション・センターで行う。
- (2) インフォメーション・センターの開設時間は大会前日の15:30~17:00及び大会期間中の開門時刻~閉門時刻とする。
- (3) インフォメーション・センターは正面ロビーに設置する。

### 3. 各書類について

大会期間中の各書類の配布及び提出の窓口については、次のとおりとする。

書類名	配布場所	提出先・依頼先
重複出場届	招集所	招集所
不出場届	インフォメーション・センター	インフォメーション・センター 及び招集所
リレーオーダー用紙		招集所
記録証明書		インフォメーション・センター
第4位から第8位までの賞状		
上訴申立書	学連本部	学連本部(要預託金)

### 4. 練習について

メインスタジアム及び補助競技場を練習場として使用することができる。詳細は【練習に関する注意事項】を参照すること。

### 5. 競技場使用上の注意

- (1) ごみ袋を学校受付の際に配布するので、清掃を徹底して確実に行うこと。なお、ごみ捨て場は競技場正面玄関入り口付近に設置するが、原則としてごみは各自で持ち帰ること。
- (2) 更衣は更衣室を使用すること。更衣室での場所取りは禁止する。
- (3) メインスタンドでの集団応援は禁止する。集団応援の際は、フィールド競技の進行に配慮すること。
- (4) メインスタンドでの部旗・横断幕の掲出は、一般観衆の妨げとなるため禁止する。バックスタンドでの掲出は認めるが、開放時間は3日間を通じて開門後とし、競技終了後は速やかに撤去すること。掲出の際は必ず紐のみを使用し、ガムテープ等の使用は禁止する。
- (5) 大会前日、また当日中の開門前の日をまたいだ**場所取りは厳禁とする**。閉門時にはシートを含め、荷物は全て持ち帰ること。開門前、閉門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している大学を発見した場合、厳重に注意し、その大学の以降の出場を認めない場合がある。

- (6) シートの固定等で競技場内においてテープを使用する場合は、養生テープのみに限定し、そのほかのテープ類（紙製のガムテープ等）を使用することは禁止する。
- (7) 駐車は係員の指示に従い、陸上競技場前の中央口駐車場または北口駐車場を使用すること。バスで来場する際は、配布された許可証を車内の見える位置に掲示しておくこと。駐車しない車は混雑を避けるため、駐車場への侵入を禁止する。
- (8) 当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内には立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技者の出場を認めない場合がある。
- (9) 医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中（補助競技場等含む試合会場）において起こった怪我に対しては主催者側が応急処置を行うが、それ以降の治療に対しては一切責任を負わない。ただし、出場者は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必ず競技会参加者は健康保険証（コピー可）を持参すること。
- (10) メインスタンド下の競技場内通路は関係者以外の侵入を禁止する。
- (11) スパイクで競技場内通路を通行することは厳禁とする。
- (12) 貴重品や荷物の管理は各大学及び各個人で行うこと。紛失、盗難に関して主催者側は一切の責任を負わない。拾得物があった場合はインフォメーション・センターにて一時保管する。
- (13) 開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。

	開門	閉門
6月29日(金)	7時	20時
6月30日(土)	7時	20時
7月1日(日)	7時	14時30分

## 6. 招集について

- (1) 招集所は競技場第4コーナー100mスタート側用器具庫前に設置する。ただし、雨天時は用器具庫内にて行う。
- (2) 招集の方法について
  - ① 招集は招集所にて行う。選手本人がユニフォームを着用した状態で集まり、胸・腰ナンバーカード、スパイク、商標の確認を受けて第1次招集を完了とする。確認後は第1次招集完了時刻まで競技者係にて待機すること。
  - ② 第2次招集については、競技役員の指示に従うこと。
  - ③ 2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ「重複出場届」に必要事項を記入し、競技者係に提出する。
  - ④ 代理人による招集は認めない。
- (3) リレーについて
  - ① メンバー及びオーダーの変更の有無にかかわらずラウンド毎にオーダー用紙を招集所に提出すること。提出は最初の組の招集完了時刻の1時間前とする。
  - ② オーダー用紙提出後の怪我等による変更は、主催者の任命した医師の判断がない限り認められない。
  - ③ 招集開始時刻になり次第、4人全員で招集をうけること。

- ④ リレーチームの編成は、必ず当該リレーチームでエントリーしているものが2名以上含まれていなければならない。それ以外の2名はプログラムに記載されている選手であれば、予選ラウンドから出場できる。

- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場を認めないので十分注意すること。
- (5) 競技者が競技場に商標のついた衣類、バッグ等を持ち込む場合は、2018年度日本陸上競技連盟競技規則「競技会における広告および展示物に関する規定」の項を遵守する。基準をこえる商標については必ずテープ等を貼って隠すこと。
- (6) 種目別の招集開始及び完了時刻は、原則次のとおりとする

種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	競技開始 30分前	競技開始 20分前
フィールド種目	競技開始 40分前	競技開始 30分前
棒高跳・円盤投・ ハンマー投・やり投	競技開始 70分前	競技開始 60分前

各組の招集開始、完了時刻の詳細は競技日程を参照すること。

## 7. 不出場(棄権)について

やむを得ず出場を辞退する場合は下記の要領で申し出ること。

- (1) 大会7日前(6月22日)までに不出場が判明している場合は、九州学生陸上競技連盟より送付した事前不出場届に必要な事項を記入の上、6月22日(金)17時までに本連盟事務所に提出する。
- (2) 上記期日以降は、不出場届(インフォメーション・センターに用意)に必要な事項を記入し、当該校の監督・コーチが署名したうえで、招集完了時刻までに招集所とインフォメーション・センターへ提出すること。
- (3) 無断棄権に対しては、以後の大会の出場を認めないなどの厳しい処分を課す場合がある。

## 8. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは、本年度登録番号のものを使用し、ユニフォームの胸部および背部に明瞭につけること。ただし、跳躍競技については胸部または背部の一方だけでよい。なお、本大会では3000m以上の種目は招集所にて腰ナンバーカードと同じ番号のナンバーカードを配布する。このとき、3000m以上の種目に出場する競技者も本年度登録番号のナンバーカードを確認するので忘れず持参すること。
- (2) トラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。腰ナンバーカードは第1次招集時に招集所にて配布する。これらのナンバーカードは競技終了後フィニッシュ地点で返却すること。3000m以上の種目に出場した競技者は、胸ナンバーカードも返却すること。
- (3) 混成種目の各日最終種目の腰ナンバーカードは、現地招集時に現地にて受け取ること。

## 9. 競技の抽選・番組編成について

- (1) トラック種目における次のラウンドへのプラス選出者の際に、同記録が複数出た場合、写真判定により 1000 分の 1 秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合、本人または代理人によって公平に抽選を行い決定する。ただし、1500m 以上の場合は次のラウンドに進出できる。
- (2) 写真判定装置故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動に変える場合がある。

## 10. トラック種目について

- (1) スタートの合図は“On Your Marks”、“Set”で行う。
- (2) 不正スタートに関しては競技規則 162 条を適用し、単独種目における不正スタートは 1 回で失格とする。混成においては、各レースでの不正スタートは 1 回のみとし、その後に不正スタートをした競技者は、すべて失格となる。
- (3) 計時について、トラック競技の計時は写真判定 (0.01 秒) とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時 (0.1 秒) とする。
- (4) 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。
- (5) リレー競技に出場するチームは、各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツやランニングパンツの区別は設けない。
- (6) 男子 5000m、男子 3000mSC についてはタイムレース決勝とする。
- (7) 10000m、10000mW については、給水を設置する。5000m については気象状況に応じて給水を設置する場合がある。
- (8) 5000m、10000m、10000mW に関しては下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技を中止させる。

	男子の部	女子の部
5000m	17:00.00	19:00.00
10000m	35:00.00	40:00.00
10000mW	49:00.00	59:00.00

- (9) 男女 5000m、男女 10000m については、当日の状況を見て、インレーン、アウトレーンへの振り分けを行う。役員の指示に従うこと。

## 11. フィールド種目について

- (1) 跳躍競技のバーの上げ方は原則として次のとおりとする。

種目	種別	ピット	練習	試技開始	バーの上げ方
走高跳	男子	Bピット	1m95	1m90	2m10 まで 5 cm 刻み、以降 3 cm 刻み
			2m05		
	女子	Bピット	1m55	1m55	1m65 まで 5 cm 刻み、1m69、1m72、 以降 3 cm 刻み
			1m65		
棒高跳	男子	A/Bピット	4m60	4m40	5m00 まで 20 cm 刻み、以降 10 cm 刻み
			5m00		
	女子	A/Bピット	3m20	3m00	3m40 まで 20 cm 刻み、以降 10 cm 刻み
			3m60		

※同成績の場合は競技規則第 181 条 8 項を適用する。

- (2) 走高跳・棒高跳の練習の高さは当日変更する場合がある。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。
- (3) 競技者が 1 人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。ただし、2 つのピットに分かれている場合は、両ピットを通じて一人になった場合に限る。
- (4) 三段跳の踏切板の位置は、男子は 13m、女子は 10m とする。
- (5) 投擲種目の公式練習は 2 回までとする。ただし、ハンマー投と混成競技の投擲種目は 1 回とする。
- (6) 走幅跳・三段跳の公式練習は、競技進行の状況により本数を決定する。
- (7) フィールド競技において、それぞれの試技に制限時間を設ける。
- (8) 今年度より跳躍に関する規定が変更になったので注意すること。

## 12. 混成競技について

- (1) 招集は、各日最初の種目に限り招集所で行う。それ以降の種目については現地にて招集を受けること。混成競技者控室は第 4 コーナーよりの男女更衣室とする。
- (2) 混成競技における招集完了後の競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
- (3) 跳躍種目は 2 ピットで行う。
- (4) フィールド種目の公式練習は招集後に直ちに行うものとする。ただし、公式練習については競技進行の状況により本数を決定し、投擲種目は 1 回とする。また、走高跳及び棒高跳の練習時の高さに関しては、招集後現地にて決定する。
- (5) 走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は原則として次のとおりとする。

種目	種別	ピット	試技開始	バーの上げ方
走高跳	十種競技	Aピット	1m60	1m90 まで 5 cm 刻み、以降 3 cm 刻み
	七種競技	Aピット	1m25	1m50 まで 5 cm 刻み、以降 3 cm 刻み
棒高跳	十種競技	A/Bピット	3m00	4m20 まで 20 cm 刻み、以降 10 cm 刻み

### 13. 対校得点について

- (1) 各種目の得点は、1位8点、2位7点、3位6点、・・・8位1点の8点制とする。
- (2) 総合得点が同点の場合は、優勝種目の多い大学を上位とする。優勝種目数が同じ場合は2位種目数、その後は3～6位種目数を各々比較して、より多い大学を上位とする。以上の点で同じ場合は同順位とする。
- (3) エントリー時点で出場が5大学以下又は12名以下となった種目についてはオープン種目として扱い、得点対象としない。

### 14. 表彰について

- (1) 男子総合優勝校には、秩父宮賜杯、優勝旗および四地区学連会長杯を、女子総合優勝校には、四地区学連会長杯を授与する。総合2位校、3位校には盾を授与する。
- (2) 総合、トラック、フィールド、混成の3位までの大学には賞状を授与する。
- (3) 各種目1位～3位の競技者には賞状及びメダルを、4～8位の選手には賞状を授与する。競技終了後、競技役員が表彰時間を指示するので、それに従い本部横の入賞者控室まで集合すること。入賞者が集合できない場合は、代理人を出すこと。また、表彰の際は大学指定の競技用ユニフォーム（上）とジャージ（下）を着用すること。
- (4) 男女最優秀選手には賞状と盾を授与する。

### 15. 抗議の申し立てについて

- (1) 抗議は競技規則第146条に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから30分以内に、次のラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから15分以内に、競技者自身または代理人が総務に申し出る。
- (2) 審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金（¥10000）を添えて、正式な手続きをとる。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

### 16. 競技用器具について

用器具は全て競技場備え付けのものを使用する。ただし、やり、ポールについては個人のものを検査の上使用を認める。その場合、ほかの競技者にも使用させなければならない。ポールの検査については競技実施エリアで審判員が随時行う。やりについては競技開始1時間半前にスタート地点付近の用器具庫にて検定を行う。使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者の負担において賠償の責任を負うものとする。この場合、主催者は一切の責任を負わない。

### 17. その他

- (1) 記録証明書を希望する競技者は、記録証に交付料金300円を添えてインフォメーション・センターまで申し込むこと。
- (2) 競技会において競技者は助力とみなされるビデオ、カセットレコーダー、ラジオ、CD・MDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォン、もしくはそれに類似するものを、

競技場内で所持することは認められない。勧告を受け入れられない場合は失格となる。なお、そのほか競技者に対する助力については競技規則第 144 条を適用する。

- (3) 悪天候等により競技の続行が難しい場合、総務・審判長等の協議によって、競技日程を変更する場合がある。また、台風等で以後の競技実施が困難となり中止になった際、その時点で結果が確定している種目の得点にて順位を決定する。
- (4) 参加校は学生審判及び学生補助員の派遣要請に基づき、定められた数の学生審判及び学生補助員を派遣すること。学生審判の服装は正装とし、日本陸上競技連盟公認審判員証および審判手帳を持参して審判にあたること。受付にて配布する名札と腕章も着用すること。学生補助員は学校指定のジャージの着用を認める。派遣しなかった大学は以降の出場を認めない。
- (5) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の以降の競技を中止させ処罰を与える。
- (6) 今大会では代表者会議を行わないため、諸連絡事項は九州学生陸上競技連盟IPにて確認すること。
- (7) 今大会ではドーピングコントロールテストを実施しない。
- (8) その他、不明な点等は、インフォメーション・センターに問い合わせること。インフォメーション・センターに質問可能な時間帯以外で問い合わせを希望する場合は九州学生陸上競技連盟 (kyu-athi@blue.ocn.ne.jp) までメールにて連絡すること。
- (9) 上記の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合は必ず従わなければならない。